

アコースティックバンド「テノヒラ」のボーカル 愛南町出身の kiku さんが綴るふるさとエッセイ

—あいなん音故地新— 「生きてこそ」

4月にYouTubeチャンネルを開設した。その頃東京は自粛要請を受けて家で過ごす時間が増え、会いたい人には会えず、行きたいところにも行けず、一人暮らしをしている人は特に不安や寂しさが募っていたとき。多くの人が誰かの温もりに触れたかったと思う。

そんな中で、歌が聴きたい、歌を配信してほしいと友達や知り合いから言われたことがきっかけとなって、始めることにした。そこで歌ったのがテノヒラの「生きてこそ」。こんなときやからこそ届けたかった曲。生きていればいつかまた必ず笑える日がくる。

そして、こんなことがなかったらYouTubeなんてやることはなかったんじゃないかと思う。いつもと違う日常は新しいことに挑戦するチャンスくれた。どんな経験も無意味なものはない。この時間がみなさんにとっても新たな発見があり、意味のある時間になっていますように。

YouTubeチャンネルは『くるくるあたまチャンネル』で検索するか、QRコードを読み取ってアクセスしてください。「生きてこそ」の他にもカバー曲などをアップしています。ぜひ聴いてみてください。今しかできなことを楽しんで過ごしましょう。

(テノヒラkiku)



Youtube
くるくるあたま
チャンネル

あいなん逸品図鑑 その②



「ヒラメ」

つぼ網漁師 久保 かずしげ 一茂さん(大成川)



愛媛CATV
動画

「以前は5人ほどいたが、今は私だけ」と話すのは、西海地域でただ一人のつぼ網漁師である久保^{かずしげ}一茂さん。夜明け頃に大成川を出港し、5分ほどかけて麦ヶ浦沖の漁場に向かい漁をしています。

つぼ網漁とは、海底に定置網を敷設し、産卵期などに餌を求めて回遊してくる魚を袋状の網(つぼ網)に迷い込ませて漁獲する漁法のことです。この漁で獲れる魚の種類はさまざまですが、特にこの時期は盛漁期を迎えたヒラメが目を引きます。

久保さんによるとヒラメは身がしっかりしているので刺し身で食べるのが一番とのことですが、「さっと湯に通してポン酢を付けて食べてもおいしい」と話します。漁を続ける上での苦労はあまり感じていないそうで、「日々何が取れるか楽しみでやっている。体が元気なうちはがんばりたい」と笑顔を見せていました。



▲つぼ網漁で漁獲した魚を水揚げする久保一茂さん。漁師歴は50年に迫るベテランです。



▲久保さんがこの日水揚げした約4kgのヒラメ。普段は2〜3kgのサイズが中心です。